

21世紀ロボットチャレンジプログラム

～ ロボットテクノロジーが生活を変える ～

16FY（うち運営費交付金） 15FY（うち運営費交付金）
63.8 億円の内数（33.4 億円の内数） 32.8 億円の内数（0.5 億円）

目的	我が国製造業を支えてきたロボット技術を基盤とし、先端的要素技術の開発等の促進により、ロボットの活用範囲を家庭、医療・福祉、災害対応などに拡大する。
目標・効果	2005年までに、国民の潜在的ニーズが高いと思われる病院、福祉施設、家庭、災害現場などで活用されるロボットの開発を行い、2009年までに、これらロボットの製品化を図る。また、2020年までにロボット産業を現在の自動車産業のような我が国の基幹産業の一つに成長させることを目指す。 本プログラムの実施により、2010年における市場規模及び雇用規模は、約3兆円及び72,000人と予想される。

施策パッケージのポイント

【主要プロジェクト】

（1）次世代ロボット実用化プロジェクト

（新規：'04～'05）

特に実用化が期待されている次世代ロボット（人間社会に共存するロボット）について、実用化要素技術を組み込み、長期的実証試験をすることで、実用的なロボットのシステム化技術確立し、次世代ロボットの早期実用化を図る。また、心理的抵抗感等のない次世代ロボットのプロトタイプ開発を行い、実用化に向けた技術開発への展開を促進させる。

16FY 15FY
31.3 億円 新規

（2）次世代ロボット基盤的要素技術開発（戦略的基盤技術力強化事業の一環として実施）

（既存：'03～'05）

次世代ロボットに必要な基盤的要素技術（モータ、力センサ、画像・音声認識等）を確立し、次世代ロボットの早期実用化を図る。特に、これら要素技術について高い技術ポテンシャルを持つ中小・ベンチャー企業のロボット分野への参画を積極的に支援し、中小・ベンチャー企業も巻き込んだ新しいロボット産業の実現を目指す。

16FY 15FY
31.7 億円の内数 31.9 億円の内数

（3）ロボットの開発基盤となるソフトウェア上の基盤整備（「ロボット機能発現のために必要な要素技術開発プロジェクト」を名称変更）

（既存：'02～'04）

製造現場から、病院、家庭等の生活支援分野に到るまで、多様なロボットの開発に不可欠となるソフトウェア上の基盤（ロボットの要素のモジュール化と、モジュールの統合によるロボットの構築を可能とするソフトウェア仕様）を整備し、中小・ベンチャー、異業種を含む多様な主体によるロボット開発の活性化を図る。

16FY 15FY
0.8 億円 0.9 億円

政策上の活用等のポイント

【研究開発成果の活用】

- ・プロジェクトを通じて開発した要素技術を活用したロボットシステムの実用化・製品化を促進する。
- ・見本市や関連公益法人等における普及活動等により、プロジェクトの成果を活用したロボットシステムの実用化・製品化を促進する。
- ・開発したソフトウェア等の成果については、広く一般に提供するなど積極的な普及を図ることにより、より多くの研究主体がロボット研究に参加できる環境を実現し、ロボット開発の裾野の拡大を図る。

【政策実現のための環境整備】

- ・病院、福祉施設、家庭、災害現場等の環境で活用されるロボットの普及に必要なと思われる安全基準、各種法令などの制度の在り方について検討を行う。
- ・ロボット関連部品等の見本市を開催することによって、システム開発者、要素部品の開発者、ロボットユーザー等とのマッチングを図り、中小・ベンチャーや異業種企業のロボット産業への参入を促進する。